

白山ふるさと文学賞

第十二回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」または「家族へのおもい」〉

小学生1・2年の部 最優秀賞

「おとうとがおしえてくれたこと」

松任小学校一年

八田 はった
岬 みさき

いちねんせいになってはじめてのなつやすみに、わたしにおとうとがうまれました。なまえは「こうき」です。おうちではまいにち「かわいいね。だいすきだよ。」

と、みんなでいっています。だいじなかぞくがひとりふえました。

こうきがうまれておうちにくるまでのあいだはおかあさんがいなくてかなしかったけれど、おとうさんといもうと

「はやくこないかな。まだかな。」

と、わくわくおはなしをしてまっています。

やっとおかあさんとこうきがかえってきてみんなにこにこえがおいっぱいになりました。はじめてこうきにあつて、おかもてもあしもわたしよりもすぐくちいさくてびっくりしました。でも、だっこをしてみると、すぐおもとくて、てがいたくなりました。

なつやすみはおかあさんのおてつだいもたくさんしました。こうきのおむつをかえたり、おかあさんといっしょにおふろにいれたり、おようふくをきせたりしました。どれもちよつとむずかしかったけれども、

「じょうずにできたね。ありがとう。」

と、おかあさんがほめてくれたのでうれしかったです。またおせわをしたいなどおもいました。

はじめていっしょにねたひは、なかなかいかな、ねてくれるかなと、しんぱいでなかなかねむれなかつたです。

おかあさんは、こうきのなきごえでおっぱいがのみたいのかおむつをかえてほしいのかわかつていてすごいなとおもいました。てをちゅちゅつしてないのかわかっているとおっぱいがのみたいんだよとおかあさんがおしえてくれました。おとうさんといもうとにもおしえてあげました。ものしりはかせにもなれてうれしかったです。

おかあさんのかわりにひとりではじめてのおつかいにもいきました。おみせのおばちゃんに

「ひとりできたの？すごいね。」

と、いわれました。おうちにかえってきて、おかあさんはすぐうれしいおかおをしてまっています。どきどきしたけれども、おかあさんがよろこんでくれてうれしかったです。がんばっていつてよかつたなどおもいました。

おてつだいやこうきのおせわは、さいしょはできるかな、どうやるのかなと、しんぱいでいっぱいだったけれども、だんだんじょうずにできるようになって、ほめてもらえてすぐうれしかったです。まいにちたいへんだったけれども、いろんなことができたのしかったです。

これからもたくさんおてつだいやこうきのおせわをしたいなともうし、かぞくもわたしのおてつだいでたくさんよろこんでくれてしあわせなきもちになってほしいです。こうきがかぞくになつてはじめてしたことたくさんありました。こうきもげんきでおおきくなつてほしいなどおもいます。こうきがおおきくなつたら、わたしのはじめてのなつやすみのおはなしをたくさんしてあげたいなどおもいます。ありがとうもいいなとおもいます。

